

ジャック・ロゲIOC会長記念講演 「オリンピック・ムーブメントとアカデミーの役割」

大学体育研究編集委員会

2006年10月20日ジャック・ロゲ国際オリンピック委員会会長に対する名誉博士称号授与式典が、筑波大学学生会館国際会議場に於いて盛大に催された。式典に続いてジャック・ロゲ会長による記念講演も行われた。式典での「開会の辞」、ロゲ会長に対する名誉博士号授与の経緯、記念講演の要旨を記録する。

1. 開会の辞(体育センター長 萩原武久)

紫峰、筑波山の頂の木々にもちらほらと紅葉が見られるこの良き日に、ジャック・ロゲ国際オリンピック委員会会長をお迎えし、筑波大学名誉博士称号授与式が盛大に開催できることを大変嬉しく思います。

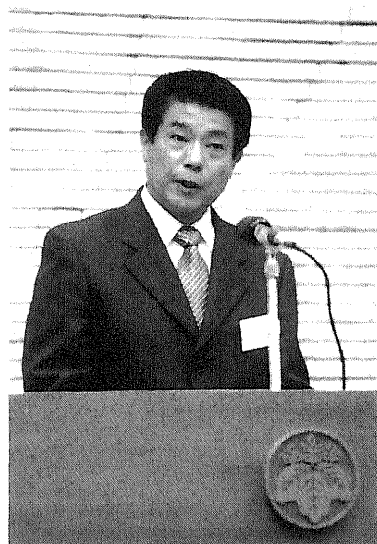
本日の、ジャック・ロゲ会長をお招きする契機になったオリンピック講座は、真田久、嵯峨寿の若い2人の教員の発想に端を発し、私が責任者として担ぎ出されてスタートしたのですが、今日、このような形で実を結ぶことができたことに感慨深いものを感じます。

思い起こすと、3年前の2003年4月14日に本学の総合科目「オリンピックの望郷」と題して授業が始まり、年間30回開講されました。担当していただいた教員は30名、学外からの特別講師は8名にのびりました。

この8名の特別講師陣には、本日まで臨席を頂いている猪谷千春国際オリンピック委員会副会長、竹田恒和日本オリンピック委員会会長の名も刻まれております。

2003年6月14日に、竹田恒和会長には「JOC竹田会長の夢」の題目で講義をしていただきました。竹田会長は、日本のオリンピック・ムーブメントを推進する会長としての姿勢や、オリンピック出場を夢見た少年時代など自身とオリンピックに関わるエピソードを披露されました。オリンピックは「人生そのもの」とおっしゃられ、オリンピックにのめり込んでいくきっかけが、小学校5年生の国語の教科書で、1932年のオリンピック、ロサンゼルス大会の馬術競技に出場した城戸俊三選手のスポーツマンシップを題材にした「愛馬物語」だったと言います。自身をオリンピックに導いた一冊の教科書。同じ機会を現代の子ども達にも与えたいと、小中学生に対するオリンピック教育はJOC会長として重要課題であると結ばれました。

次いで、猪谷千春国際オリンピック委員会副会長には、2004年2月9日に「銀メダルのシュプール」と題し講義をしていただきました。「なぜ、私が強くなったのか」の問いかけにキョトンとしている学生達。幼少の頃から恵まれた環境で育ち存分にスキーができたからメダリストになれたのだろうと思っていた学生達。それが、留学先のダートマス大学での学生生活に話が及ぶと、学生の顔が一変します。ダートマス大学では、テストの成績が60点以下だと、キャンパス外のイベントへの参加が禁止されるなど様々な罰則があって、これをクリアするために、過去の経験や固定観念を捨て無の状態か



ら新しいものを考える。それを「ゼロベース思考」と名付け、「練習をしながら勉強は出来ないが、勉強しながら練習はできる」と、スキーを履かなくてもトレーニングが出来ることを実践されたと言います。最後に学生達には、「体が丈夫でなければ頭がどんなに良くても使えない。基礎体力の重要性を認識してほしい」と結ばれました。

本日、この席には、先生方の講義を聴き、強いインパクトを受け、それを教訓に社会で活躍している卒業生も顔を出しております。

この第1回のオリンピック講座の開講にあたり、ジャック・ロゲ会長には激励のメッセージをお寄せいただきました。学生をはじめ関係者一同大いに感激をいたしました。ここに、改めて御礼を申し上げます。

このオリンピック講座は2003年以降、講義名を変えて毎年実施してきました。この3年間で受講生は1,000人になりました。今年度は12月から始まる第3学期に、7科目となる「オリンピックの日本招致」が開講いたします。

これらの一連のオリンピック講座が、オリンピック・ムーブメントの発展に対しいささかでも寄与できているのであれば望外の幸せです。

私たちは今後も、このオリンピック講座を発展させ、継続していく所存でございます。関係の皆様のご指導、ご鞭撻をあらためてお願い申し上げます。

ジャック・ロゲ会長には、オリンピック・ゲームズとオリンピック・ムーブメントを通じて世界平和と人類の発展のためにご尽力頂きますよう、心よりお願い申し上げます。

最後になりますが、ご多忙の中、また、遠路ご臨席をいただいたロゲ会長ご夫妻、猪谷千春国際オリンピック委員会副会長、竹田恒和日本オリンピック委員会会長をはじめ、ご臨席賜りましたすべての皆様に、厚く御礼を申し上げ開式の辞といたします。

2. ジャック・ロゲ会長に対する名誉博士号授与の経緯

ジャック・ロゲ会長は、オリンピック・ムーブメントを推進する国際オリンピック委員会の会長として、オリンピック競技会の改革に着手され、人類にとってより適切な規模のオリンピック競技会の開催と、ドーピング問題の撲滅に積極的に取り組まれながら、平和の祭典としてのオリンピック理念の普及に尽力されています。

筑波大学では2003年度以来、五輪講座を開講し、オリンピックの意義やそれが持つ文化的多様性について探求しています。ジャック・ロゲIOC会長はこの五輪講座に深い理解とご理解をいただき、講座開講にあたり激励のメッセージを寄せて下さり、その後も同五輪講座を継続的にご支援下さっております。

ジャック・ロゲ会長は、オリンピック・ムーブメントの改革と発展に積極的であり、また、筑波大学の学生に対して、オリンピックへの幅広い学問的関心の向上に貢献され、筑波大学の研究者にもオリンピック研究の重要性とその意義を提供されています。そこで、この度、ジャック・ロゲ会長の功績を評し、筑波大学名誉博士の学位を授与するものであります。

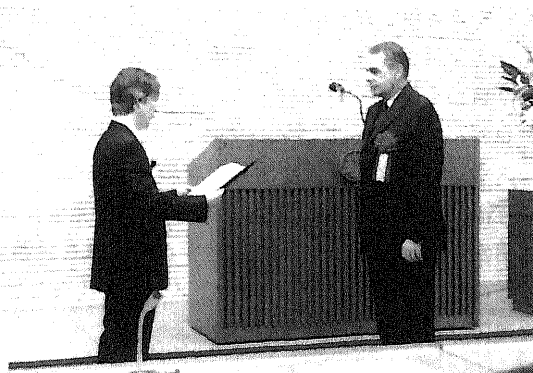
東京高等師範学の校長を務めた嘉納治五郎がIOC委員に就任(1909年)してから、日本のオリンピック・ムーブメントは歩みを開始し、まもなく百年を迎えます。東京高等師範学校、東京教育大学、そして筑波大学は一貫してオリンピック・ムーブメントに貢献して参りましたが、今回IOC会長を招い

て、名誉博士称号を授与することで、今後もオリンピック・ムーブメント振興のための研究と教育の面で、筑波大学がさらに発展していくことを期するものであります。

3. 記念講演「オリンピック・ムーブメントとアカデミーの役割」(ジャック・ロゲ会長)

貴大学より名誉博士号を頂戴することはたいへん光栄であり、嬉しく思います。体育・スポーツの価値と伝統を継承・推進しておられる貴大学よりかくなる榮譽を授かったことを誇りに感じております。

ピエール・ド・クーベルタン男爵によって1894年にIOCが創設されたのは、筑波大学のような一流大学、パリ大学ソルボンヌ校でのことでした。古代ギリシャにおけるオリンピック競技会



の精神を復活させようと決めたクーベルタンと同僚たちは、スポーツを用いて、より良き生活とコミュニティを構築しうる人間の基礎的価値を世界の若者に教えようと努めたのでした。その同僚の一人というのが、柔道の創始者であり、クーベルタンのような教育家であった嘉納治五郎です。30年間にわたり、嘉納はオリンピック・ムーブメントに貢献しました。彼は日本オリンピック委員会の創設に尽力し、クーベルタンと協力してオリンピズムという新しい理想を支持しました。それは、スポーツを用いて文化と教育を向上させ、世界の若者たちを、スポーツと教育と文化がダイナミックに融合した平和の祭典へ4年ごとに参加させ、これを祝おうというものです。100年前に生まれたオリンピズムですが、21世紀のIOCの哲学として今日にも受け継がれております。

日本はオリンピズムにおいて大きな役割を果たしてきています。1964年の東京大会、1972年札幌大会、1998年長野大会と、日本はオリンピック競技会を3回開催しております。そして現在、東京都は2016年夏季大会の招致に意欲を示しているところです。日本はオリンピックのメダル獲得数においても金123個、銀116個、銅130個と見事な記録を残しています。三宅義信、船木和喜、田村(谷)亮子、荒川静香らの卓越したパフォーマンスは、今なお人々の記憶によみがえることでしょう。私は、日本とIOC内でオリンピズム普及に大きな貢献をはたしてきた二人の同僚たちに賛辞を送ります。猪谷千春氏は、1956年コルチナ・ダンペッツォ大会のスラローム競技において銀メダルを獲得した、日本人最初の冬季メダリストです。岡野俊一郎氏は、1968年のメキシコ大会でサッカーチームを率い、銅メダルを獲得しました。

スポーツを通し、我々は若者たちに人間の伝統的な価値を教えることができますが、スポーツはかれら個人の性格形成以外に、かれらが生活を営むコミュニティの形成にとっても重要なものです。今日の社会では、世界中の若者の健康的なライフスタイルにとって、スポーツが重要な位置・役割にあることがますますはっきりしてきました。しかしながら、憂慮すべきは、先進国では様々な理由から体育・スポーツが学校のカリキュラムから削減されつつあることです。これによってもたらされる最も深刻な問題のひとつが、運動不足と肥満の原因たるスクリーン(テレビ、ビデオ、コンピュータ)への依存です。そのため、高度な競技トレーニングだけでなく、基礎的な身体活動をおこなう機会を増

やすことが欠かせなくなります。

我々の義務とは、スポーツの内在的価値を尊び、これを脅かすドーピングほかの危険に対し警戒を怠らないことにあります。オリンピック・ムーブメントには、ドーピングと戦ってきた長い歴史があります。というも、スポーツの普遍的な価値であるところの健全な行為やライフスタイル、フェアプレイ、敬意の念、規律、連帯感、人格の発達、寛容の精神などは、不正行為によって損なわれてしまうおそれがあるからです。

このことは、筑波大学のような大学においても重要な関心事であろうかと存じます。と申しますのも、大学は、未来における信頼できる指導者、専門家、コーチ、教育者となる学生たちを教育するという責務を担っているからです。貴大学の卒業生は一他の大学の卒業生もまたそうでしょうが日本と世界においてスポーツの発展を図り、スポーツの価値を振興する担い手なのです。

スポーツ界ならびに学術界に求められるのは、若者たちがフェアプレー精神に基づいたスポーツ・身体活動へ参加するよう奨励し、かれらの幸福に寄与することです。望むべくは、スポーツを通して若者が互いに尊重し合うことを学び、これを日常生活においても実践できるようになることです。

最後に、オリンピック・ムーブメントの代表として素晴らしい名誉を頂戴いたしましたことをあらためて、感謝申し上げます。

4. レセプションと記念展示

式典と記念講演終了後、会場を総合交流会館に移し、レセプションが開催されました。

レセプションの運営ならびに、会場内の展示と装飾は三宅真理子、梅村佳範、江崎祐介、岡地智史、河野広実、木津さつき、坂本愛美、鹿野真央、鳥屋智大、長谷川大地、久富大輔(以上体育専門学群レジャー論研究室学生)と大浦律子、富田美智子、長瀬桃子(以上芸術専門学群デザイン専攻学生)、駒井知礼(社会工学類学生)らが協力し、早くから準備に奔走し、当日の実施に尽力いたしました。



ロゲ会長は、三度のオリンピック競技会に出場しておられますが、そのうちの一つ、72年ミュンヘン大会の翌年に筑波大学は開学しています。以来本学はオリンピックならびにパラリンピックの各競技会に多数の選手・役員等を送り出してきました。日本が選手団を派遣しなかった80年のモスクワ大会を含めると現役生・卒業生を合わせ45名が日本代表に選ばれ、16名がメダル(総数18個)の栄冠を手にしております。

筑波大学の前身である東京教育大学の時代にさかのぼると、オリンピック42名が校史に名をとどめ、うちメダリストは9名を数えます(39個：金20、銀14、銅5)。なかでも加藤澤男氏(現・筑波大学教授)は68年メキシコ大会から三大会連続出場を果たし、体操競技の個人総合で2連覇を成し遂げ、金メダル8個を含む合計13のメダルを獲得しました。

歴史をさらに東京高等師範学校までさかのぼってみると、講道館柔道の創始者である嘉納治五郎氏

は、長く同校の校長を務め、体育の奨励に努めました。1909年には、近代オリンピックの提唱者であるピエール・ド・クーベルタン男爵に請われアジア初の国際オリンピック委員会委員に就任し、わが国のオリンピック・ムーブメントの発展に貢献することとなりました。その遺志を筑波大学もまた受け継いでいかななくてはなりません。

そこで、ロゲ会長の来学を記念したこのたびの企画展では、(1)嘉納治五郎の教育思想とオリンピック・ムーブメントにはたした貢献を伝える「JIGORO流五輪書」、(2)本学出身オリンピックを各大会毎に顕彰する「筑波大オリンピック列伝」の二部で構成しました。あわせて会場内には、オリンピックのイメージをモチーフとして活かした装飾が随所に施され、ムードを演出いたしました。

企画ならびに展示作品の作成にあたっては、OB・OGオリンピックには快くインタビューに応じていただきました。展示パネルに使用した、今となっては非常に貴重な写真の数々はアフロ・スポーツならびにフォートキシモト、講堂館などの協力で展覧できる運びとなりました。

記念すべき企画に関わる機会を得た学生たちは見事にそのチャンスを活かし、「桐の葉」の伝統に連なる誇りを心にしかと刻んでくれたものと確信しております。